

小中学校授業での土砂災害防止教育展開例 (2) 小学校社会科

学習指導要領に示された教科の目標

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

注1：文頭の記号・番号は、学習指導要領に準拠している。

注2：国土交通省砂防部「土砂災害防止教育ガイドライン（案）」を参考とした。

注3：数社の教科書の授業展開例を参考とした。

学年	土砂災害防止教育に関する学習項目と内容(注1)	当該項目で土砂災害防止教育の視点から教えたい内容(注2)
3	(1)ア 自分たちの住んでいる身近な地域や市(区、町、村)について「特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設などの場所と働き、交通の様子、古くから残る建造物など」を観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。	○自分たちが住む地域の山・川などの中には、がけ崩れや地すべり、土石流など土砂災害に関連する(土砂災害を起こしやすい、土砂災害の結果できた、など)地形上の特色をもつものもある。 ○災害を抑止するための施設として、砂防施設等が建設されている。
4	(3)イ 地域の人々にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、「これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること」を見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。	○人々の暮らしに不可欠な飲料水は、林野事業による水源涵養・保全、砂防事業による貯水池への土砂流入防止、ダム事業による貯水ダム建設など、さまざまな公共事業が計画的・協力的に進められることによって確保されている。
4	(4)ア 地域社会における災害及び事故の防止について、「関係機関は地域の人々と協力して、災害や事故の防止に努めていること」を見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。	○国や県の働きや市町村の協力で、土石流・地すべり・がけ崩れなどの土砂災害や、火山噴火による災害を未然に防ぐ努力をしている。 ○災害を未然に防ぐための施策としては、砂防施設等の建設や危険箇所の指定、危険箇所の地図配布、避難路・避難場所の指定、住民参加の避難訓練などがある。 ○自分も地域社会の一員として、自分の安全は自分で守る努力をすることが大切である。
5	(1)我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。 イ 地形や気候の概要、自然条件から見て特色のある地域の人々の生活	○我が国は国土の70%が山地で、大きな平野は少ない。 ○川の多くは急流河川である。 ○日本列島はプレートの境目に位置し、断層・火山が多く、地質的にも脆弱である。 ○我が国の気候は四季の変化が顕著である。 ○国土の北と南、日本海側と太平洋側では気候が異なる。 ○近年は地球温暖化によると考えられる気候変動が見られる(豪雨の増大、台風の強大化など)。 ○山・川・海などの地形条件や気象条件、さらには自然災害などの自然環境に適応し、さまざまな生活の工夫が行われ、産業が営まれている。
5	エ 国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止	○森林は国土保全に大きな役割を果たすが、その自然災害の防止機能には限界がある。 ○森林資源の育成や保護のために、たくさんの人々が工夫や努力を重ねている(林野、砂防など)。 ○我が国の国土は、地震や津波、風水害、土砂災害、雪害など、様々な自然災害が起こりやすい条件を備えている(地震や津波、火山活動、台風や長雨による水害や土砂災害、雪害などの被害の事例を紹介)。 ○被害防止のために国や都道府県などが、砂防や治水など様々な対策や事業を進めている(国や県などが進めてきた砂防堰堤や堤防などの整備、ハザードマップの作成など、対策や事業を紹介)。
5	(4)イ 我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、「情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり」を調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響	○土砂災害防止のため、警報ネットワークシステム等を有効活用し、公共サービスの向上に努めている。 ○土石流センサーによる警報システムや土砂災害警報体制の構築により、溪流等の危険情報をいち早く危険区

	を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。	域の住民等へ知らせている。 ○溪流や火山等の監視映像をリアルタイムで見ることが可能な公共サービスを行っている。
6	(2)ア 我が国の政治の働きについて、「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映している」ことを調査したり資料を活用したりして調べ、国民主権と関連付けて政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていること、現在の我が国の民主政治は日本国憲法の基本的な考えに基づいていることを考えるようにする。	○風水害、地震や津波、土砂災害、火山噴火などの災害に対し、国や地方公共団体の救援活動や災害復旧が行われる（災害事例、復旧作業事例、災害後の人々の暮らしなどを紹介）。

	一般的な授業展開例(注3)	土砂災害防止教育の授業展開例
3 (1)ア	○学校の周辺について知る ・学校の周りの探検 ・絵地図づくり ○市町村の様子を知る ・(航空写真や地図を見て) いろいろな地形と土地利用、地図記号 ・駅の周辺や繁華街、川・海のそばなど特徴ある地域	○学校周辺や家の近くの土砂災害の危険がある場所を知る ・川(川幅や勾配、水量、石の大きさなど)、山(勾配や植生などの様子)、斜面など土砂災害が発生しやすい地形や場所(絵地図に危険箇所を書き込む) ○土砂災害を防ぐ施設 ・身近な場所で見られる災害を防ぐための施設 ・地域で見られる昔の砂防・治水施設
4 (3)イ	○水はどこから来るか ・暮らしの中の水利用(身の周りの水利用と水不足) ・水道水が家庭に送られるまで ・地図で探す水源 ・水資源と水質の保全	○飲み水を守るために砂防が行っていること ・土砂災害と水道施設の被災事例 ・ダムへの土砂流入を防いでいる砂防施設の事例 ・水源涵養林と山腹工(山腹工によって植生回復した事例)
4 (4)ア	○地域の防災・防犯 ・消防署の仕事(消防に関して) ・警察の仕事(主として交通安全に関して)	○土砂災害を防ぐ仕事 ・土砂災害から暮らしや命を守る仕事(砂防)とそれを行う人たち ・災害を防ぐための施設(*詳細は5年生で) ・避難訓練やハザードマップなど土砂災害防止のためのソフト対策(*詳細は5年生で) ・自主防災組織の活躍(地域の組織の紹介)
5 (1)イ	○日本の地形の特色と人々の暮らし ・日本の地形の特色 ・川や水とのたたかい(「木曾三川と輪中」など) ○日本の気候の特色と暮らし ・日本の気候の特色 ・気候の違いに応じた産業や生活	○日本の地形の特色(土砂災害が多い背景としての) ・山地が多く、平地が狭い ・山は急峻、川は急流 ・火山が多い ○日本の気象の特徴(土砂災害が多い背景としての) ・雨が多く、季節によって集中して降る ・豪雪地帯が多い ・気候の温暖化で豪雨や大型台風が増えている
5 (1)エ	○人々の暮らしと森林 ・身近な森林、さまざまな特色ある森林の姿 ・森林の働きと利用 ・林業 ○自然災害を防ぐ ・自然災害の多い日本 ・災害を防ぐために行われていること ・みんなで協力して災害を防ぐことの大切さ	○森林の土砂災害抑止効果とその限界 ・森林がある斜面とない斜面の違い(どのように異なるか) ・森林の効果(「緑のダム」の働き) ・山腹植栽工でとくしゃ地(はげ山)を緑に変えてきた砂防の歴史 ・深層崩壊と森林の限界 ○土砂災害の多い日本 ・土砂災害の種類と発生のしくみ ・各地で多発している土砂災害(グラフ・分布図など) ・雨と土砂災害の関係 ・山から流れてくる土砂が原因で洪水が発生する仕組み ・地震と土砂災害 ・火山災害 ・雪による災害 ○土砂災害を防ぐために行っていること(砂防について) ・砂防堰堤、溪流保全工など ・砂防ソフト対策(ハザードマップ・警戒避難情報など) ・土砂災害の前ぶれ

		<ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害から身を守るため自分たちでできること
5 (4)イ	<ul style="list-style-type: none"> ○情報化社会と人々の暮らし ・情報化によって便利で豊かになる暮らし 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害警報システム ・土砂災害を見張り、危険を住民に知らせる仕組み ・雨量などの気象情報を知らせる仕組み ・情報の入手の仕方
6 (2)ア	<ul style="list-style-type: none"> ○私たちの暮らしと政治 ・災害から人々を守るためのしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> ○災害から人々をまもるために国や自治体が行っていること ・災害が起きた時に国や地方自治体が行うこと（実際の事例に基づいて、災害復旧や被災者支援などの取り組みを紹介） ・ふだんから備えていること（ハード・ソフト対策）